



平成30年1月発行
発行元：茨木市

平成29年11月25日(土) **市民公開講座**

はつらつ長寿をめざして

『老年症候群』って何？ その予防と対策

関節痛が気になったら！



大阪医科大学附属病院
リウマチ膠原病内科
永井 孝治

『老年症候群』とは、加齢に伴って出現するあらゆる症状や病気(疾患)の総称であり、この概念の中には身体的障害のみならず、認知症や抑うつなどの精神的障害を含むことが特徴です。そしてこの『老年症候群』は進行すると、最終的に『介護』が必要な寝たきり状態となります。『寝た

きりの原因』を調べてみると、実に骨関節疾患が合わせて約20%以上となり、これは原因1位の脳血管疾患(脳卒中など)に匹敵する数字です。

今回のテーマである関節痛は筋力低下、寝たきりにつながる重要な老年症候群のひとつで、関節リウマチをはじめ、変形性関節症、痛風、偽痛風などが含まれます。これら関節痛の原因を早期に診断し、進行予防もしくは治療を行うことで将来の寝たきりを防ぐことが出来ます。藍野病院では、医師のみならずリウマチケア看護師を含めた専門チームで骨・関節疾患の診断・治療・ケアを行っており、関節痛が気になった際はいつでもお越し下さい。

メタボリック シンドロームと認知症



医療法人恒昭会 藍野病院
内科副部長
(糖尿病・内分泌内科)
吉田 麻美

『メタボ』で知られているメタボリックシンドロームは、内臓肥満を基盤として、耐糖能障害、高血圧、脂質異常などが合わさった状態です。内臓肥満になると、内臓の脂肪細胞から悪玉因子がたくさん出てきてインスリン抵抗性につながり、高血糖さらに脂質異常、高血圧にもつながり、動脈硬化という血管の老化を起しやすく

なります。その結果、心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性疾患の発症率が高くなる、この状態がメタボなのです。加齢とともに内臓脂肪が増加し、筋肉量が低下するという身体組成の変化に伴って、メタボに陥りやすい状態となりますが、最近、老年症候群の代表である認知症とメタボの関係が明らかになってきました。アジア人での軽度認知障害の発症リスクは、メタボで1.46倍、2型糖尿病で2.84倍、またメタボと糖尿病、心臓疾患の3つの要因をもつ人では、発症リスクは4.92倍といった報告があります。

診断の基準は内臓脂肪面積100cm²に相当するお臍の高さのウエスト周囲径で、男性85cm、女性90cm以上とされています。お腹周りを測定しつつ、養生をこころがけ、生活習慣を改善して、認知症を予防、はつらつ長寿をめざしましょう。



還付金詐欺にご注意を！



茨木市健康福祉部 高齢者支援課 (いきがい支援係長) 佐原 寛則

大阪府内、特に北摂地区では還付金詐欺やオレオレ詐欺などの特殊詐欺被害が今なお頻発しています。本市の特殊詐欺認知件数は、10月末日現在で49件、被害額も1億円を超えており、府内市町村の中でも高い被害額が報告されています。

新聞やテレビのニュースなどで頻繁に取り上げられ注意喚起がされていますが、次から次へと新しい手口が出てくるなど巧妙化しており、被害が止まらない状況です。

本市においても金融保障協会の職員と名乗り、カードが不正使用されている、調査のためキャッシュカードを預からせてほしいと言って被害者宅に赴き、カードをだまし取った後、お金を引き下ろすという新たな手口が多発しています。詐欺被害を未然に防止するためには、詐欺の状況を知り、日々心がけることが大切です。知らない電話には出ない、また金銭の絡む電話は自分で決めますに家族や周りの人に相談するようにしましょう。皆さん是非気を付けてください。

「茨木市モデル」とその目指すものについて

藍野病院院長 杉野正一

今全国の自治体から「茨木市モデル」が注目されています。昨年4月に厚生労働省(霞ヶ関)において先進的地域連携システムとしてプレスリリースを行いました。昨年12月にはWHOにおいて、「Baraki Model」として紹介されました。そして、今年7月には平成29年度医療連携の統合を目指す医療政策研究フォーラム(軽井沢フォーラム)の先進的地域シブジウムにおいて、茨木市モデルをテーマにした発表とディスカッションが行われました(図1)。

「茨木市モデル」とは、三師会、茨木市介護系スタッフが協働して展開している認知症を中心に据え全ての高齢者を対象にした地域連携システムです。

DMS(認知症診断・治療支援ソフト)を導入し、かかりつけ医がネットワークの中核的役割となり、はつらつパスポート(予防編・連携編・ICT編)を用いて当事者や介護家族の在宅療養を多職種協働により支援するシステムです。図2、図3にその全体像と特徴を示しました。ご利用頂ければ幸いです。

医療連携の統合を目指す医療政策研究フォーラム(平成29年度)

2017年7月6日(水) 軽井沢

- 【Innovative Community Session: case study & consultation】(12:40 ~ 14:40)
 大阪府茨木市: 全ての高齢者を対象とする都市型地域包括ケアシステムの深化・推進
 ~認知症の早期発見・治療・ケア、そして予防~
- 総会司会: 杉野正一 (藍野病院) 上野 豊 (茨木市医師会)
- 『茨木市モデル』とその目指すもの
杉野正一 (藍野病院)
 - 医師会の取り組み: かかりつけ医が認知症診療の「要」に: 認知症診断・治療支援システム(DMS)
中島周三 (茨木市医師会)
 - 後方支援病院の取組: 地域全体の認知症ケア向上と共通言語化: あいの認知症プロジェクト
園田 薫 (藍野病院)
 - 行政と地域の取組: 新オレンジプランと茨木市における居場所と出番の創出
永友良純 (茨木市)

図1 平成29年度軽井沢フォーラム プログラム



図2 「茨木市モデル」の全体像

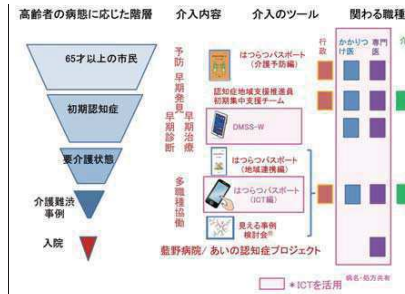


図3 「茨木市モデル」の特徴 - 多層階的地域連携アプローチ

平成29年 医療連携の統合を目指す 医療政策研究フォーラム

後方支援病院の取り組み

地域全体の認知症ケア向上と、共通言語化

藍野病院 精神科 副部長 園田 薫

茨木市では高齢者の状態に応じて、階層別に目標を立て、適した職種が適切なツールを活用して介入を行っています。(図3)の中で後方支援病院である藍野病院の取り組みとしては以下の3つがあります。

1. 認知症のワンストップ医療
藍野病院では、①認知症の鑑別診断、②精神症状の治療、③身体合併症の治療を一つの病院で行うことが可能です。
2. 認知症ケア向上を目的とした、あいの認知症プロジェクト
あいの認知症プロジェクトでは専門性の高い認知症ケアスタッフが育成されており、多職種スタッフが地域に出て認知症ケアで貢献しております。
3. 見える事例検討会を活用した共通言語化とICT化

患者さんの情報やプランを医療と介護が垣根を越えて共有する目的で、見える事例検討会という検討会を行っています。今後は、検討会で完成したマップというツールをICTで共有して患者さんがどこにいても使える共通言語にしていきたいと考えています。

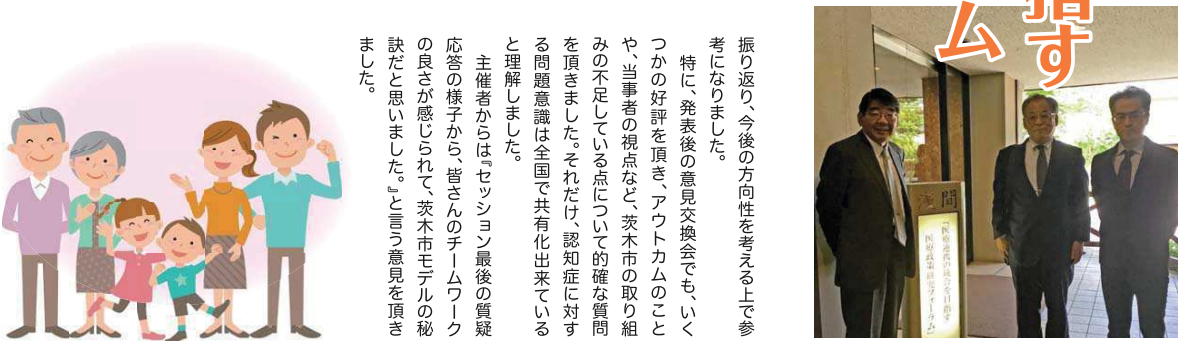
新オレンジプランと 茨木市における居場所と出番の創出

茨木市健康福祉部 高齢者支援課 (地域支援係長) 永友 良純

主な内容は、「はつらつパスポートの経緯」「生活機能の状態に応じたパスポート」「茨木市の地域支援事業」「認知症ケア」「認知症カフェ」などについて発表しました。

フォーラムからの主な質問・意見は、「認知症施策の事務局機能」「はつらつパスポートの活用状況」「認知症施策のアウトカム指標」「認知症施策に関する全数調査などの実施状況」「認知症施策への当事者の意見の反映状況」などに対して受けました。

また、フォーラム後の意見交換会では、認知症疾患医療センターの医師や研究機関の研究者とのディスカッションを行うなかで、アウトカム等の結果を求める姿勢が必要との認識が深まり、我々の課題と感じていることでした。今後、次期計画作成においても参考になることであり、事業効果、評価を強く意識していきたいと思えます。



振り返り今後の方向性を考える上で参考になりました。

特に、発表後の意見交換会で、いくつかの好評を頂き、アウトカムのことや、当事者の視点など、茨木市の取り組みの不足している点についての確な質問を頂きました。それだけ、認知症に対する問題意識は全国で共有化出来ていると理解しました。

主催者からは、「セッション最後の質疑応答の様子から、皆さんのチームワークの良さが感じられて、茨木市モデルの秘訣だと思いました。」という意見を頂きました。



地域に広がる いばらきオレンジかふえ

誰もが気軽に集える 「憩いの場」

いばらきオレンジかふえ(認知症カフェ)は、認知症の人やその家族、地域住民など、どなたでも参加できます。参加者同士の交流や情報の交換が行え、お茶を飲みながらゆっくりと過ごせる憩いの場として、茨木市でも広がりがつづいています。認知症の人が今までの暮らしや人との繋がりを途絶えることなく、家族や友人と一緒に参加できる場所です。認知症の人を介護している家族にとっては、認知症について理解を深めると共に、分かり合える人と出会える場所でもあります。

交流深め、悩みを共有 外出のきっかけにも

いばらきオレンジかふえは地域住民の方や医療・介護・福祉の専門職が開催しており、内容は様々です。お茶を飲みながら地域の皆さんと交流をしたり、時には看護師や介護福祉士などの専門職からアドバイスを受けたり、いばらきオレンジかふえの人と人との触れ合いが地域の中で認知症に対する理解が深まることにも繋がっています。

認知症の人や家族の方はもちろん、どなたでも、ぜひ一度お近くのいばらきオレンジかふえに、「気軽な交流」を楽しみに出かけてみてはいかがでしょうか。



いばらきオレンジかふえマップでは、開催場所・日時・連絡先を紹介。市役所、地域包括支援センター、多世代交流センターなどに置いてあります。ホームページにも掲載中。
http://www.koshikai.or.jp/aino_orange/

いばらきオレンジかふえに関する
問い合わせ先はこちら

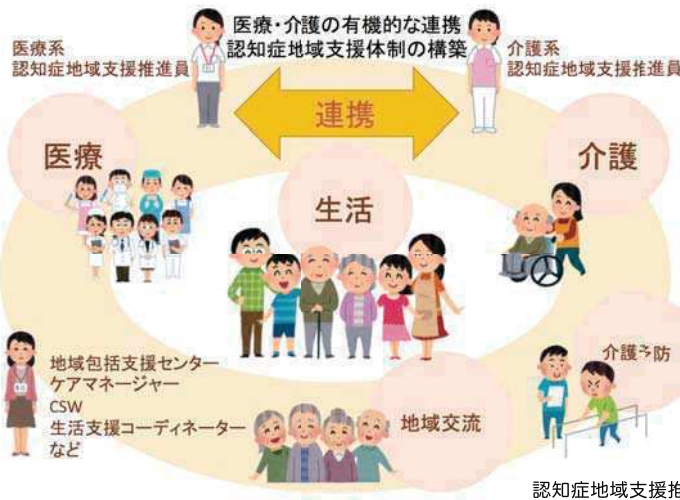
認知症地域支援推進員(介護系)
☎072-657-7717

(社会福祉法人 慶徳会内)
受付時間 月～金曜日 午前9～午後5時

認知症に関する相談は 認知症地域支援推進員へ

認知症地域支援推進員とは

茨木市では、医療と介護が連携する支援体制を構築するため、医療系・介護系の認知症地域支援推進員を2名配置しています。認知症の方が安心して地域で生活を続けていくには、「医療」と「介護」の両面のサポートが大切です。



認知症地域支援推進員の役割

★こんなときには認知症地域支援推進員へご相談ください

- ★これって認知症？
 - ★対応方法について知りたい
 - ★近くで認知症の診断が出来る専門の医療機関が知りたい
 - ★本人、家族が参加できる交流会を知りたい など
- 認知症に関することはおまかせください。まずは認知症地域支援推進員までご相談ください。



認知症
オレンジダイヤル
ココロ 晴れる
0120-556-806
(医療法人恒昭会 藍野病院内)
受付時間 月～金曜日 午前9時～午後5時
(土日・祝日・年末年始12月29日～1月3日除く)
認知症地域支援推進員(医療系)が対応します。